土砂災害警戒区域と今回の災害情報

自治協災害本部　情報を基に早めの避難と新たな防災体制を

八本松自治協災害本部は、今回各地域の防災会で行われる研修会に合わせ、土砂災害警戒区域の情報提供と説明を行った。この情報は本年2月に県から公表され説明会が行われ、3月末の告示を受け防災委員会から各防災会に情報が流されていたもの。

しかし、今回の豪雨災害を考慮し、さらに徹底を期すために行った。内容は既に各防災会に提供した土砂災害警戒区域に今回発生した土石流、がけ崩れ、内水氾濫等の場所と避難経路や避難場所等を加えたマップと特別警戒区域の災害規模を想定したデータ。

説明に当たった自治協災害本部の景山氏は、各地域の災害の特徴と、個々の区域の推定される災害状況について説明を行った後、「今回被災された区域の方はもちろん、土砂災害警戒区域、なかでも特別警戒区域（大きな被害が予測される地域）にお住いの方は今一度周囲の状況を確認され、十分な準備と早めの避難をお願いしたい」と述べた。

また、各防災会では今回示されたマップを基に、今後避難場所や避難経路を修正し防災体制を強化されるとともに現在配布されている地域の防災マップを更新する必要があるものと思われる。

土砂災害特別地域の具体的な説明をする景山氏

土石流の渓流 林野庁の直轄治山事業で復旧

災害復旧推進課　年度内に応急復旧完了　本工事も順次実施

治山事業計画を説明する永岡氏

11月18日八本松西（宗吉東南・北）地区の防災研修会では、林野庁の直轄治山事業の計画について市災害復旧推進課の永岡正美氏から説明された。これは、当地域で大規模な山地災害が起こり、地元の強い要請もあり今回発生した土石流の渓流が林野庁の事業で復旧されることとなったと報告。

全体事業概要は、最初に応急復旧事業により土石流が途中で止まった状態で不安定な渓流（溝迫交差点に流れた渓流と記念池の渓流）について土砂・立木撤去、大型土嚢の設置などを年度内に実施。

次に、災害関連緊急治山事業で溝迫交差点に流れた渓流と東広島・安芸バイパスの工事現場に流れた渓流の治山事業が今年度末から開始される見込み。

最後に、その他の渓流について、来年度から10年後までの完成をめどに順次治山事業が実施される。

実施に当たっては地権者の方の同意をもらう必要があり、地域の皆さんのご理解をいただきたいと説明した。

更に、道路や河川を対象にした公共土木災害復旧事業や田畑やため池を対象にした農地・農業用施設災害復旧事業の進展状況が災害復旧推進課から説明された。

また、現在八本西5丁目と7丁目に市から出される防災情報は暫定的に早めの発令されているが、これらの応急対策が完了し、安全性が確保されるまで継続される旨危機管理課から説明された。

山地災害復旧の事業展開の概要

期間		事業計画	H30年度 12月	1月	2月	3月	H31年度	H32年度～H39年度
直轄治山事業	応急復旧	応急対応の箇所：年内に工事発注し、年度内に完成	→	→	→	→		
	災害関連緊急治山事業	優先する箇所：本年度治山えん堤設計、工事発注、来年度本格工事				→	→	
	直轄治山事業	その他の箇所：来年度から10年を目途に展開					→	→

災害復旧推進課の説明スライド資料を要約

児童の防災避難誘導訓練

児童引渡し下校訓練で アンケートで貴重な意見

八本松住民自治協
防災委員会

災害時には最も混乱すると想定される中学校駐車場前での避難誘導状況
この班の児童は約2.5kmの距離で最大14カ所の横断歩道のある通学路を付き添い者に守られ帰宅した

10月27日八本松小学校で「防災教育参観日並びに児童引渡し下校訓練」が行われ、八本松住民自治協議会防災委員会はこの訓練に合わせ児童の防災避難誘導訓練を行った。

小学校が行った「児童引渡し下校」は、児童が学校にいる時、豪雨や大地震など災害発生の前後に保護者に児童を安全に引き渡すもの。しかし、保護者が何らかの事情で学校に来れない場合、児童を安全に自宅まで送る「地域下校」を行う必要性がある。そこで、地域防災活動の推進を担っている住民自治協議会防災委員会が日頃児童の登下校時見守り活動をされている方々の協力を得て児童の防災避難誘導訓練として小学校の行う地域下校訓練に協力した。

当日は2時間目に全学年で防災の授業が保護者参観のもとで行われ、3時間目に約470名の保護者による約600名の児童引渡し訓練が行われた。その後、地域下校する約150名の児童を約60名の自治協等児童見守り関係者や教職員により自宅まで誘導された。

引渡し下校訓練では円滑な児童引渡しと、迎えに来た100台を超える保護者の車の安全な誘導に注意が払われた。また、地域下校訓練では15地域に児童を分け自治協関係者と先生が付き添いにつくとともに通学路の要所に登下校時見守りをされている方が配置され災害時を想定した児童の避難誘導に注意が払われた。

いづれの訓練も円滑に進んだが、今回の訓練に対する保護者のアンケート（回答58名）では初めての体験をとおし具体的で真剣な意見が多数（118件）寄せられた。その内容は、今回の訓練を評価（19件）する意見がある一方、実際の災害時に同様な体制がとれるか不安（4件）とする意見が出された。また、通学路には平常時でも危険な箇所が多く（30件）、災害時にはさらに増える（23件）と具体的な場所を指摘。そのため、災害時の安全体制をどう確保するか災害時の危険な場所の回避や箇所数をどう減少させるか等の問題の解決（35件）を求める貴重な意見が多数寄せられた。

今後、学校と地域が一体となった取り組みで、これらの問題解決にあたる必要があるものと思われる。

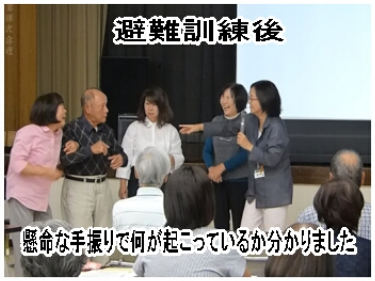
防災避難誘導訓練アンケート

回答の分類		件数
回答者数		58
通学路で危険な箇所	災害時	23
	平常時	30
引渡し下校等災害時の対応	検討してほしい	35
	具体的な提案	4
引渡し下校時の危険な行動		7
引渡し下校訓練の評価	評価する	15
	要検討	4
合計		118

八本松地域センター
手話講座

ろう者に寄り添う 地域づくりを目指して

障害者にとっての最大不安 災害時の対応



懸命な手振りで何が起こっているか分かりました

ろう者の方を避難場所に誘導する参加者
（左から2番目と3番目）

9月27日八本松地域センターは、東広島市障害福祉課の唐澤美加さんを講師に招き、身体障害者相談員の秋山明美さん、地域にお住いの「ろう者」の久保幸雄さん、手話サークル「たけのこ」の皆さんの協力を得て手話講座を実施。この講座は今年6月28日に開かれた講座に続くもので今回は約30名の参加者のもとで開かれた。

講義は、前回学んだ初歩の手話を復習した後、健常者には何でもの呼び出し、来訪者の対応等が聴覚障害者の方にとって大変な不安があることを参加者は確認した。唐澤さんは、「このような不安軽減のため、現在は各種制度でサポートする物（装置等）が支給されたりするがそれだけでは不安は解消しません。一番重要なのは近隣の方の寄り添いです」と述べられた。

講義の途中でいきなり「センター内に火事が発生。係員の指示で直ぐ避難してください」と避難訓練のアナウンスがあり参加者全員即座に避難した。

突然の事態の中でも、ろう者の「秋山さん」と「久保さん」を冷静に誘導する参加者の素晴らしい行動が見られた。訓練後、ろう者の方は「その時何が起こったかわかりませんでした。参加者の方の懸命な身振り手振りで火事だと察しがつき一緒に避難し助かりました」と感想を述べられた。

また、地域とのつながりについて聴かれた久保さんは「最近、敬老会に参加し楽しかった。今後も参加したい」。秋山さんは「私たちも地域組織の一員です。ぜひ意見を聴いていただき一緒に仲良くやっていきたいです」と手話で述べられ、現状のサロンや自治会、住民自治協の今後の活動に期待された。

最後に、中本センター長は「ろう者の方に対する理解は頂けたと思う。これを機に皆さんの活動の中で障害者に対する配慮のアクションを起こしていただければ幸いです」と述べ、講演会は終了した。